

中部農業改良普及 センターだより

e-mail : CE0017@pref.iwate.jp

ホームページはこちら→



令和7年11月発行 第19号

◇中部農業改良普及センター

TEL : 0197-68-4464

◇西和賀普及サブセンター

TEL : 0197-82-3125

◇遠野普及サブセンター

TEL : 0198-62-9937

農作物の栽培管理(11~12月)ワンポイントアドバイス



◆ 小 麦

- ・ほ場内明渠は、必ず年内に設置しましょう。
- ・ほ場が乾いていることを確認し、越冬前の4~6葉期に麦踏みを実施しましょう。
- ・雪腐病類の発生が懸念される場合、対象の薬剤を根雪前に散布しましょう。

◆ 大 豆

- ・青立ち株や大型雑草などを収穫前までにほ場から撤去しましょう。
- ・収穫適期(茎水分50%以下、子実水分20%未満：分枝が手でポキポキと折れる時期が目安)に達した大豆は、速やかに収穫しましょう。



◆ 野 菜

- ・罹病株の残渣は、病害虫の伝染源となり、病害虫の越冬や土壌を介して蔓延させるので、栽培終了後は、根ごと抜き取ってほ場外へ持ち出し、適切に処理しましょう。
- ・残渣処理の際は、茎の断面や根を確認し、土壌病害やセンチュウ被害の有無を確認しましょう。
- ・被害が見られた際は、次年度に向け、接木の導入、薬剤処理、土壌消毒等の対策をしましょう。
- ・ハウス内の雑草は、害虫の越冬場所となるため、随時、処分しましょう。

◆ 果 樹

- ・苗木や若木は野ネズミの食害を受けやすいので、根雪前に各種忌避剤、殺そ剤による対策を実施します。殺そ剤や忌避剤は根雪直前に処理すると効果が高いでしょう。
- ・凍寒害の発生が心配される園地では、若木を中心に地際部から高さ50cm程度まで、炭酸カルシウム剤(商品名ホワイトンパウダー)を塗布するか、わらを巻く等して被害の軽減を図ります。

◆ 花 き

【りんどう】茎がレモン色~山吹色になったら、地際15cm程度残して刈り払います。極晩生種など茎が遅くまで生きている場合は、刃物は使用せずに30cm程度の高さとで折り取っておき、あとは越冬後に片づけるようにします。

【小ぎく】親株活着までは保温や換気により10~25℃の範囲で管理し活着を促しますが、活着後は凍らない程度の温度があれば充分です。くれぐれも温かくし過ぎないように注意します。

◆ 畜 産

- ・気温が13℃を下回ると子牛は寒冷ストレスを受けます。たっぷりの敷料やバスマットなどで、子牛の体が冷たい壁や床に触れないようにしましょう。また、子牛が濡れないよう糞尿で汚れた敷料を早めに交換したり、ジャケットやヒーターで温めたりするのも効果的です。
- ・寒いからと牛舎を締め切ったままだと、空気が汚れて子牛が体調を崩します。暖かな日中には窓を開けるなどして、汚れた空気を排出し新鮮な空気に入れ替えましょう。



岩手県オリジナル水稻品種「白銀のひかり」を紹介します！

「白銀のひかり」は、岩手県農業研究センターで約10年かけて育成された品種で、「金色の風」「銀河のしずく」に続く県オリジナル水稻新品種として、今年から一般栽培が開始されました。

「白銀のひかり」は、「いわてっこ」に代わる県北地域向けの品種として開発されたものですが、県中部でも標高が高い（標高240m以上）地域が栽培適地とされています。稈長が短く倒伏しにくい特徴を持ち、収量面でも優れる良食味品種として期待されています。

今年度、遠野市及び西和賀町では、モデルほ場を設置（遠野2か所、西和賀1か所）し、栽培見学会や生育調査等を実施しました。今年は高温・少雨の環境下でしたが、収量面では、「いわてっこ」と同等以上の結果が得られたほか、食味についても、一部地域で行われた試食会の参加者からは好評が得られたということでした。

10月28日にロゴマークのお披露目が行われると同時に、県内を中心に精米の販売がスタートしています。

普及センターでは、栽培拡大等に向けた支援を継続していきます。



西和賀町のモデルほ場
白銀のひかり（左）と いわてっこ（右）

指導士さんを紹介

花巻市

さとう たくみ

佐藤 巧 さん

- ・岩手県農業農村指導士協会
中部ブロック副会長・花巻支部会長
- ・（有）岩手園芸 代表取締役

◇経営概要

施設花き：大型ハウス10棟、パイプハウス8棟

露地花き：10,000㎡、水田：26a

◇経営の特徴

- ・1棟260坪の大型ハウスでは、花壇苗のほかカーネーションやシクラメン等季節に合わせた鉢花・苗物を、露地では鉢物りんどうを生産するなど、15名のパートを雇用し周年花き生産に取り組まれています。
- ・底面給水システム等の先進的技術を積極的に導入しながら、販売時期に合わせたきめ細かい管理を行ってメーカー委託生産・契約販売に繋げるなど、安定した経営が展開されています。
- ・また、JAいわて花巻鉢花生産部会長や東北鉢物生産組合長として、県内外の鉢花生産者の技術研鑽と情報交換を積極的に進めるなど、鉢花生産者のリーダーとしてご活動されています。



取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、経営を継続させることが大切。
信頼される経営、「よろこばれる」花づくりを目指していきたいです！

— 研修会開催のお知らせ —

「令和7年度経営力向上に向けた研修会」を以下のとおり開催しますので、是非ご参加ください。

日時 令和7年12月11日（木）13:30～15:30

場所 岩手県農業研究センター2階 中会議室

内容 講演「法人の意義と法人化に向けた準備（仮）」

講師：中小企業診断士 土岐徹朗 氏

事例紹介「法人化した経緯とその経過、変化したこと（仮）」

発表者：（株）アンビシャスファーム 代表取締役 佐藤孝志 氏



「いわてアグリベンチャーネット」にて、普及活動等の現地情報を随時発信しています。
是非ご確認ください。

こちらから ↓

